

インテグラル・エジュケーションから見た食育

都立一橋高等学校 主任教諭 藤井ゆき

12.yuki@gmail.com

キーワード：意識の発達段階、多様な能力、象限、支援と挑戦

0. はじめに

・自己紹介：

- ①岡山県出身。日本語教育学を専攻し、国内外で日本語教育の仕事等に従事。
- ②都立高校国語科の教員。11年目。
- ③インテグラル理論とインテグラル・エジュケーション研究会での学び→教育に応用している。

・この講演の進め方

話題提供→話し合い・交流

1. インテグラル・エジュケーションとはーインテグラル理論とケン・ウィルバー

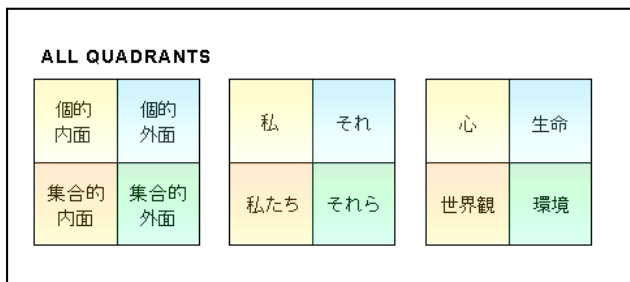
インテグラル理論ーアメリカの思想家であるケン・ウィルバー (Ken Wilber, 1949-) による。

- ・独学で自然科学と人文科学のあらゆる領域を網羅的に習得。
- ・西洋心理学諸派の研究・実践及び禅等の修行の実践。
→多様な専門領域の洞察を総合的にまとめあげたものがインテグラル理論。

2. インテグラル理論5つの主要概念

①クオドラント (象限あるいは領域)

クオドラント：世界を包括的、統合的に、そして簡潔で的確にとらえるための枠組みを示すもの。



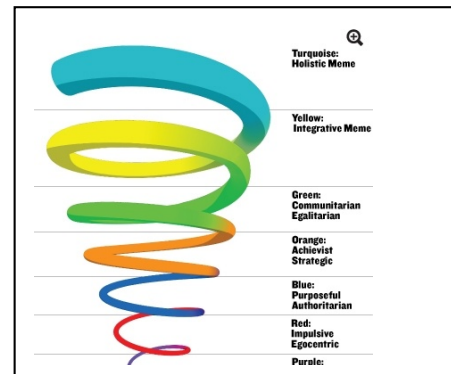
<図1 四象限>

②レベル (意識の発達段階、ステージ)

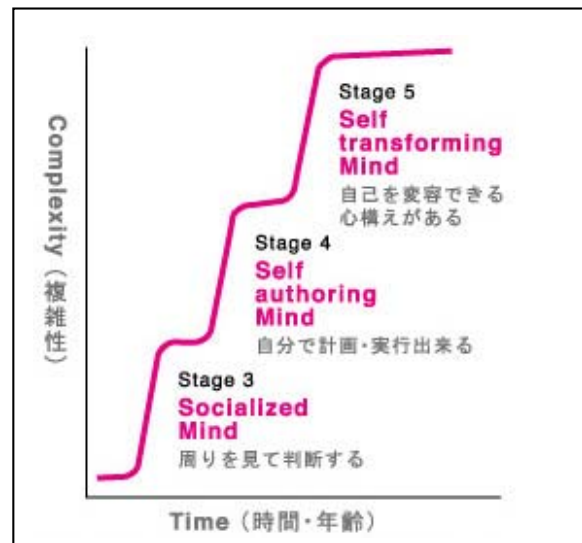
レベル：人間の心、意識は、新生児から大人へと成長する。大人になっても成長を続ける。

成長の過程は、らせんや階段にたとえられるが、その一段一段の段階のことを「レベル」または「ステージ」と言う。

・意識の段階的な発達のイメージ



<図2 意識発達のらせん>



<図3 大人の知性の3つの段階>

- ・ピアジェによる認知の発達に関する研究が有名だが、ピアジェの提唱した合理性段階 (Stage4) より上の段階 Stage5 が実はある。現代社会では Stage5 の力が徐々に求められつつある。
- ・成長を促すには、個々の意識の発達段階に合った支援と挑戦 (チャレンジ) とを与えることが重要。

③状態 (ステイト)

状態：人間の様々な意識の状態のこと。

- 例 ・グロス意識 (覚醒時)、
- サトル意識 (夢見時)、
- ユーザル意識 (熟睡時)

④タイプ

タイプ：一人一人のパーソナリティ (性格、人格) の類型。

- 例・ユングの性格分類。外向、内向など。
- ・自立 (男性性) と関係性 (女性性)。

⑤ライン

ライン：多様な能力

- 例
- ・EQ (感情知能、心の知能指数)
- ・多重知能 (マルチプル・インテリジェンス) 理論。ハワード・ガードナーによる8つの知能。

(言語的知能、論理・数学的知能、音楽的知能、運動感覚的知能、空間的知能、対人的知能、内省的知能、博物的知能)



<図4 8つの知能>

人はそれぞれ、8つの知能を持っている。

人によってある知能が強かったり、ある知能が弱かったりする。(得意、不得意もある。)

3. インテグラル理論の教育、食育への応用

- ・インテグラル理論の5つの主要概念を教育、食育に応用すると、どうなるでしょうか。
- ・特に、②レベル (発達段階) と⑤ラインを食育に活用する可能性について、一緒に考えてみましょう。

4. 今後の課題

【参考文献】

- ・青木聡・久保隆司・甲田烈・鈴木規夫著 (2010) 『インテグラル理論入門 I』 春秋社。
- ・ケン・ウィルバー著、松永太郎訳 (1998) 『進化の構造 (上・下)』 春秋社
- ・ケン・ウィルバー著、岡野守也訳 (2002) 『万物の理論』 トランスビュー
- ・ロバート・キーガン、リサ・ラスコウ・レイヒー著、池村千秋訳 (2013) 『なぜ人と組織は変わらないのか』 英治出版
- ・インテグラル・ジャパン ウェブサイト www.integraljapan.net

<図の出典>

図1：

インテグラル・ジャパン ウェブサイト (上記)

図2：

STAGES, STATES, AND SPIRAL DYNAMICS – THIS HAS CHANGED THE WAY I SEE THE WORLD

<http://aaronstietzel.com/?tag=stages>

図3：

Uemura's 25 world (ブログ)

<http://nasser.blog.so-net.ne.jp/archive/201406-1>

図4：

“8つの知能 (MI)” で自分の可能性を見つめ直す

http://www.nichinoken.co.jp/np5/nnk/multiple_intelligences/mi/mi.html